

1. 単元名「比例と反比例」

2. 単元の目標

比例や反比例の関係について理解し、伴って変わる2つの数量やそれらの関係に注目し、表や式、グラフを用いて変化や対応の特徴を見出して2つの数量の関係を考察する力を養うとともに、比例や反比例の関係を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。

3. 児童の実態

学年を3つに分けた少人数クラスで、習熟度別の上位層のクラス。単元前のレディネステストの結果を受けて、自己の選択によりグループが決まる。単元ごとに大きなメンバーの変更はないが、一人ひとりの児童が考える得意、不得意によって多少の入れ替わりがある。第5学年までの学習で、「問題を自分事としてとらえ、課題を設定し、解決して、次につなげていく。」という学習スタイルが定着している。

四則計算等の基本的な知識及び技能の定着については、一人ひとりの差が大きい。また、自ら考えて既習の事柄や算数的表現を用いて解決方法を考えて、表現することに苦手意識をもっている児童が多い。

児童一人ひとりが学習計画・学習活動・振り返りを繰り返す中で、課題の発見や課題の解決に向けて、主体的に取り組むことができるようにする。また、既習の事柄や算数的表現を例示すること、一人で解決できないことは適宜、他の児童や教師に相談しながら学習活動を進めることで解決方法を考えたり、まとめて表現したりできるようにする。

4. 評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ y が x に比例するとき、x の値が 5/3 倍、1.5 倍などになると、y の値も 5/3 倍、1.5 倍などになることを理解している。 ・ y が x に比例するとき、x と y の関係は、$y \div x =$決まった数、$y =$決まった数$\times x$ の式で表せることを理解している。 ・ 比例する2つの数量の関係をグラフに表してしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比例の関係に着目して、問題を解いている。 ・ 比例する2つのグラフを読み取っている。 ・ 反比例の関係に着目して、問題を解いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身の回りの伴って変わる2つの量の中から、比例の関係にあるものを見つけてようとしている。 ・ 身の回りの伴って変わる2つの量の中から、反比例の関係にあるものを見つけようとしている。 ・ 比例や反比例のグラフから、気づいたことを友だちと話し合おうとしている。

<ul style="list-style-type: none"> ・ 比例の関係に注目することで、問題が解決できる場合があることを理解している。 ・ 反比例の用語とその定義、性質を理解している。 ・ y が x に反比例するとき、x と y の関係は、$y = \text{決まった数} \div x$ の式で表せることを理解している。 ・ 反比例する2つの数量の関係をグラフに表している。 		
--	--	--

5. 研究との関わり

目指す子ども像、研究仮説に迫るため本単元は自由進度学習により、単元の学習を進めていく。

① 【子ども学び続けようとするための単元計画の工夫】

単元の始めに、標準的な進度と学習内容、自己評価が一体となった学習シートを提示する。また、学習内容に関わる問題を提示する。この2点により、単元や単位時間で身につける資質・能力を明確化し、子どもが見通しをもって学び続けることができるようにする。

単位時間は、学習計画（5分）、学習活動（35分）、振り返り（5分）を基本のサイクルとして進め、予見、遂行、省察を連続して行うことができるようにする。

② 【子どもが自ら学び方を決める授業のあり方】

単元で身につける資質・能力は提示し、学習進度と学習方法を一人ひとりの児童が決定できる自由進度学習とする。自由進度学習を行う意義や重要性を理解したうえで、学習に取り組むことができるよう単元の始まりに以下のことを伝える。

目的	学習効果を高めるため。
目指す姿	学びをデザインする。学び続ける。
方法	自由進度学習→個別最適な学習と協働的な学習の両輪
自己調整学習のサイクル	予見段階、遂行段階、自己省察段階
目標志向	遂行目標志向、学習目標志向
大切にしてほしいこと	一人ひとりが最適な学習スタイルを選ぶこと、成長マインドセット、学習の雰囲気づくり

単位時間では、一人ひとりがめあてを自分で設定し、学習に取り組み、その日の成果をまとめ、振り返る。めあて、学習内容、振り返りが一体となった学習レポートを作成し提出する。学習レポートの作成により、自ら学び方を決めることができるようにする。

6. 単元計画

☆：学習内容を全体で確認する、◎：記録に残す評価、○：形成的評価

小単元	標準 時数	学習内容	評価		
			思考・判断・表現	知識・技能	主体的に学習に 取り組む態度
1 比例の 性質	1	<input type="checkbox"/> 比例する2つの数量の関係について調べ、性質をまとめる。	○		○
	2	<input type="checkbox"/> 2つの数量の変わり方を調べて、比例の性質をまとめる。 「yがxに比例するとき、yを○倍になると、それにもなってxは○倍になる。」	○		
2 比例の 式	3 4	<input type="checkbox"/> 比例の関係をかけ算やわり算の式に表す。	○		
小テスト					
3 比例の グラフ	5	<input type="checkbox"/> 比例の関係をグラフに表して、特徴をまとめる。 「どの点を通して、どのような線になるのか。」	○		
	6	<input type="checkbox"/> 表を読み取り、式やグラフに表す。	○		
	7	<input type="checkbox"/> 2つの比例のグラフから、それぞれの特徴を読み取る。	○		
小テスト					
4 比例の 利用	8 (本時)	<input type="checkbox"/> 比例の性質や式を利用して、問題の解決の方法を考え、説明する。		○	
	9	<input type="checkbox"/> 比例の性質や式を利用して、問題を解決する。		◎	
5 練習	10	<input type="checkbox"/> 学習内容を利用して問題を解く。	◎		
6 反比例		<input type="checkbox"/> 反比例する2つの数量の関係について調べ、意味を理解して、まとめる。	○		◎
	11	<input type="checkbox"/> 2つの数量の変わり方を調べて、反比例の性質をまとめる。 「yがxに反比例するとき、yを○倍になると、それにもなってxは○倍になる。」		◎	
	12				
	13				
14	<input type="checkbox"/> 反比例の関係をかけ算やわり算の式に表す。	○			
		<input type="checkbox"/> 反比例の関係をグラフに表して、特徴をまとめる。 「どの点を通して、どのような線になるのか。」	○		
小テスト					
まとめ	15	<input type="checkbox"/> 学習内容を利用して問題を解く。	◎		

小学校第4学年 社会科・国語科学習指導案

1 単元名 社会科「地域で受けつがれてきたもの」 国語科「不思議ずかん」を作ろう

2 単元目標

社会	〈知識及び技能〉 ○地域の伝統と文化について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技術を身につけるようにする。
	〈思考力、判断力、表現力〉 ○地域の伝統と文化の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。
	〈主体的に学習に取り組む態度〉 ○地域の伝統と文化について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。
国語	〈知識及び技能〉 ○比較や分類の仕方、必要な語句などの書きとめ方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や辞典の使い方を理解し使うことができる。(2)イ
	〈思考力・判断力・表現力〉 ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。B(1)ア ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫すること。B(1)ウ ○間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。B(1)エ
	〈主体的に学習に取り組む態度〉 ○言葉がもつよさに気づくとともに、幅広く読書をし、国語を大切に思いや考えを伝え合おうとする。

3 児童の実態

本学級の児童は、3年生の社会科の学習で昔の人々の暮らしについて学習した際、実際に生活で使っていた道具と現代の道具の違いを見比べたり手に取って調べたりして、人々の生活について学んだ。4年生からは情報収集という点で、総合的な学習の時間として扱っている「弟子屈の自然環境」について探る際、インターネット、副読本『てしかが』、現地取材や自然ガイドの外部講師など様々な方法を用いた経験がある。国語科の「リーフレットで知らせよう」では、社会科の学習「ごみはどこへ」で見学したことを活かして、複数の情報から必要なものを取捨選択しながら自分が伝えたいことを中心にリーフレットでまとめたことがあるため、図鑑にも構成する要素があり、自分が何を中心に表したいかによってレイアウトを工夫したり様々な方法で情報を集めたりする必要性について意識すると考える。

自己決定の場としては、様々な教科で自分の興味関心に応じて深めたいと思うものを選択して追究する学習方法やそれに合わせて自ら課題を設定する機会を増やしてきた。個人で課題を設定したり情報収集をしたりすることが苦手な児童もいるのが現状であるため、課題を共有し同じ調査を進める児童らと協働的に学ぶ機会を意図的に設定しながら単元の終末を目指すことができるようにしたい。

4 評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
社会	①県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願い	①文化財や年中行事の歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、県内の文化財や年	①県内の伝統や文化について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学

	<p>が込められていることを理解している。</p> <p>②県内の伝統や文化について、博物館などを見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図や年表などにまとめている。</p>	<p>中行事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現している。</p> <p>②地域の伝統や文化を保護したり継承したりするために自分たちが協力できることを考えたり選択・判断したりしたことを表現している。</p>	<p>習問題を追及し、解決しようとしている。</p> <p>②学習したことを基に、地域の伝統や文化の保存や継承に関わって、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりしようとしている。</p>
国語	<p>①比較や分類の仕方、引用の仕方や出典の仕方などを理解し使っている。</p> <p>②様々な情報の中から必要なものを取り出して活用している。</p>	<p>①相手や目的を意識して、集めた材料を比較・分類したり、必要な情報を書きとめたりしている。</p> <p>書き表し方を工夫したり、文章の間違いを正したり、表現の仕方をたしかめたりしている。</p>	<p>①粘り強く、学習の見通しをもって自己の進み具合を調整しながら書き表し方を工夫して、「不思議ずかん」を作成しようとしている。</p>

5 教材について

社会科「地域に受けつがれてきたもの」は、県内の文化財や年中行事について、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展など人々の様々な願いが込められていることを知り、文化財や年中行事を保存・継承していくために自分たちにできることを考えることを目指している。本単元における問いは「どのようにして、長く続いてきたか」である。主にこれらの視点において、継承者の思いに触れながらまとめることを通して、文化財や年中行事について追究していくことができる教材である。

国語科「「不思議ずかん」を作ろう」は、図や写真を用いて、調べたことを相手にわかりやすく伝える学習である。本単元は、この教科書教材を参考にしている。図や写真などの資料を効果的に用いるとともに、それぞれの資料が目的をもって配置されるようにする。必要な情報は何かを事前に考えたり、組み立て表を使いながら情報をどのように利用するか計画を立てたりすることに加え、言葉づかいや題名、書き出しの工夫、難しい言葉や専門的な言葉は辞書などを使いながら分かりやすい言葉に言い換えることで、読み手を意識した言語活動に取り組むことができる教材である。

6 指導観

本単元では、社会科「地域に受けつがれてきたもの」と国語科「「不思議ずかん」を作ろう」の学習を合科的に構成している（時数配当は社会科 10 時間と国語科 6 時間を合わせた 16 時間）。

単元末の活動は、「弟子屈の獅子舞ずかん」の作成を設定する。

「獅子舞」を題材（テーマ）として扱う趣旨

社会科の教科書では、「徳島県の阿波踊り」「阿波人形浄瑠璃」を題材として扱っている。4年生の児童にとっては、自分の住んでいる都道府県以外で行われている祭りであるため、参加したことがなければその規模や様子、盛り上がりを実感するのは難しいと考えられる。そこで、弟子屈町指定文化財である「仁多獅子舞」や「鑑別獅子舞」を題材とし、児童が身近に感じられるようにすることで、文化財に関わる人の思いに迫れるよう工夫したいと考えた。身近な地域素材を教材化し授業に取り入れ地域を学ぶことは、児童が地域を知ると同時に、地域に生きるものとしての自分自身の生き方を見つめ直す良いきっかけとなり、地域への愛着心や郷土愛を育むことにもなる。特に、地域の伝統は、児童がもっとも身近で接することのできる地域の人々が受け継いできた文化と言える。さらに、弟子屈町内にある「仁多獅子舞保存会」にゲストティーチャーとしての協力を要請し、児童に向けた体験会や獅子舞の歴史について講義をしていただく。かつては富山県からの入植者によって広められた獅子舞が、現在は廃れていっているという課題がある。日本の伝統文化である獅子舞について調べを進めるだけでなく、現在も存続と継承に向けて尽力している人々の思いや願いに気付くことができると考える。

本単元における自己調整学習のサイクルの位置づけとしては、予見段階では、まず「獅子舞」というものがどのようなものかを全員で明確にする活動を行う。その中で、単元末の活動を全員で設定し、ゴール

像を共有しながら学習を進めることができるようにする。単元の学習計画については、学びの手引きにて共有を図る。単元全体の学習計画の立案は、単元の性質上難しいと判断し、情報収集に関わる4～6時間目と10～11時間目、図鑑作成をする13～15時間目に部分的に個人の学習課題の設定や学習計画の立案を行う。遂行コントロール段階では、単元末の活動や学びの手引きをもとにして、集団・個人で進捗状況がどの程度のものなのか適宜チェックし、コントロールする経験を重ねる。自己省察段階では、獅子舞とは何かを2時間目に問い、第一次調査・追究を行った後の7時間目に再度問う。そして追加の第二次調査・追究を終えた12時間目にわかったことをまとめていくことで、単元を通した学びの深まりを自覚することができるようにしたい。初めの頃は集めた資料からわかる断片的な要素が多くなると予想されるが、獅子舞体験や仁多獅子舞保存会の方々の話を聞く中で、受け継がれてきたものを守ろうとする意識が醸成されていく経過を振り返り、ポートフォリオ化を通して学びの時間をもてるようにしたい。

7. 単元の指導計画

※社会科 10 時間、国語科 6 時間 計 1 6 時間予定（ゲストティーチャーや体験の時間も含む）

		○児童の主な学習活動	・教師の手立て □評価規準 ※評価方法
一次	1 社会	○北海道の伝統的な文化財や年中行事とその概要について知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">年中行事について調べよう。</div> ○自分たちの県には、大勢の人が参加したり、見物したりしている年中行事があることを捉える。 ○地域の伝統行事の写真などを見て、知っていることや感じたことを話し合う。 ○弟子屈の文化財についてまとめる活動が単元末に予定されていることを知る。	・教師の手立て □評価規準 ※評価方法 ・年中行事に関わる人々の多さや行事に参加している人の表情が捉えられるようにする。 ・自分が見たことがある、知っている、参加したことがあるお祭りなどについて話し合うことで、文化が生活と強く結びついていることに気づくことができるようにする。 ・この学習では、地域の伝統や文化について知るだけでなく、そこに関わる人々の思いにも触れることを確かめる。
	2 国語	○弟子屈町にも、鑑別（とうべつ）獅子舞、仁多（にた）獅子舞があることを知る。 ・なぜ獅子舞が行われているのだろう。 ・誰が獅子舞をしているのだろう。 ・どうやって広まったのだろう 【社会】学習問題：獅子舞は、どのようにして長く続いてきたのだろう。 【国語】弟子屈小オリジナルの「獅子舞ずかん」を作ろう。 （国語科との関連） ・単元の見通しをもつ。 ・調べたいことを出し合う。	・各地で行われている獅子舞の映像、使われている道具などの資料を見せる。 ・獅子舞とは何か問い、地域でも親しまれている日本の伝統芸能について未知の部分が多くあることに気づかせる。 ・単元末の活動として、これから調べる獅子舞のことをまとめた図鑑を作成することを知らせ、一部を児童に例示する。 ・いくつか調べてみたら良いことを示しながら、児童が興味をもったことや不思議に思ったことを出し合わせる。
一次	3 国語	○「不思議ずかん」を作成するにあたり、構成や調べる視点を決める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「不思議ずかん」に書く内容はどんな内容にしたらいだろうか。</div> →知っていること、知らないこと、調べてみたいことは何か。 →図鑑にはどんなことが載っているか。 図鑑…絵や写真、文字などであるものについて解説した本。 ・文（調べたこと、聞いた話）・絵 ・写真 ・年表	・実際の図鑑を見ながら、図鑑の作りを調べる。 ・「不思議ずかん」を作る見通しをもつことができるように、作成の流れを示す。 ・図鑑に載せる文章や資料の基となる情報の集め方については、学校図書、副読本、郷土史資料、インターネットなどがあげられる。児童が目的に合ったものを見つけるために自分で選択して行う。

二次	4 5 6 社会	<p>○自分が決めた調べたいことを様々な手法(学校図書、副読本、郷土史資料、インターネットなど)で調べる。</p> <p>調べる計画を立てて、情報を集めてまとめよう。</p> <p>★歴史的背景や現在に至る経過</p> <p>★獅子舞とは何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べるための予想、調査計画を立てる。 ・個人課題を設定し、調査を開始する。 ・情報収集の際、より良い方法を探るための協働的な学びの機会を確保する。 ・個人課題についての振り返りを行い、次時の見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が選ぶことができるよう、複数の資料を用意する。 ・前時に出し合ったものの中から、自分で調べてみたいことを決め、調査を進める。 ・児童が調べやすいよう、ワークシートに「発祥」「道具」「音楽」「行われている地域」「地域ごとの違い」などの項目を用意しておく。 ・集めた情報の出典が明らかになるようにする。 ・1つの情報を頼りにするのではなく、いくつかの情報を比べ合うようにする。また、自分にとって必要な情報かどうかを取捨選択することの重要性について触れる。 ・協働的な学びの機会を確保しながら、自己調整の場とする。 <p>国本やインターネットなどの様々な情報の中から必要なものを取り出して活用している。【知識・技能①】※行動観察</p> <p>社様々な方法で調査し、集めた情報をまとめている。【知識・技能①】※行動観察・ワークシート</p> <p>社予想や学習計画を立てたり、見直したりしながら学習を進めている。【主体的に学習に取り組む態度①】※行動観察</p>
	7 社会	<p>○「獅子舞とはどのようなものか」についてまとめる。</p> <p>獅子舞についてわかったことを交流しよう。</p> <p>○さらに追及したいことを出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・踊り手の人について ・地元の獅子舞の歴史 ・保存や継承のための取組 ・獅子舞に関わる人々の願い ・踊りの意味 ・使われている楽器 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べた成果物についてまとめたものを交流して、個々の学びの共有を図る。 ・鑑別獅子舞、仁多獅子舞が町の文化財に指定されていることを受け、さらに調べてみたいことを出し合う。 <p>国集めた情報を比較・分類して、伝えたいことを明確にしている。【思考・判断・表現①】※発言分析、ワークシート</p>
	8 9 社会	<p>○仁多獅子舞保存会(ゲストティーチャーとして)による体験を行う。</p> <p>獅子舞を体験してみよう。</p> <p>お話を聞いてみよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に体験しながら、音や踊りの所作や隊列などにも関心が向くようにする。 ・図鑑に載せる資料として、写真などを撮る。 ・G Tの話を録画しておき、見返すことができるようにする。 <p>社獅子舞に携わる人々の思いや願いについて理解している。【知識・技能②】※行動観察、ワークシート</p>
	10 11 社会	<p>○前時まで設定した視点に沿って調べる。</p> <p>もっとくわしく調べる計画を立てて、情報を集めてまとめてみよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・より具体的に調べていくために、獅子舞のどこに注目するか視点を決めて考えるようにする。

	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に気づいた調査し足りない部分や新たな視点について調べるための予想，調査計画を立てる。 ・個人課題を設定し，調査を開始する。 ・情報収集の際，協働的な学びの機会を確保する。 ・個人課題についての振り返りを行い，次時の見直しをもつ。 <p>○弟子屈町の学芸員による出前授業を行う。</p> <p>弟子屈町の歴史に詳しい人に話を聞いてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・弟子屈で獅子舞が始まった歴史的背景について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活用できそうな資料はロイロノートで配布し，いつでも見ることができるようを用意しておく。 ・出典を正確に記録するなど，どの資料を活用したかわかるようにする。 <p>社様々な方法で調査し，集めた情報をまとめている。【知識・技能①】※行動観察・ワークシート</p> <p>社文化を保存・継承していくために自分たちが協力できることについて考え，表現している。【思考・判断・表現②】※行動観察・ワークシート</p> <p>社様々な方法で調査し，集めた情報をまとめている。【知識・技能①】※行動観察・ワークシート</p> <p>社学習したことを基に，地域の伝統や文化の保存や継承に関わって，自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度①】※行動観察，ワークシート</p>
12 社会	<p>○調べた結果の交流を行う。</p> <p>獅子舞についてわかったことを交流しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・獅子舞について，他の獅子舞との共通点や相違点に着目しながら前時まで調べた情報を交流する。 ・獅子舞についての考えを形成し，交流する。 ・単元を通じた学習課題についてもう一度考える。 ・年表をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・7時間目と同様の課題を提示する。 ・自分の単元の導入や7時間目のまとめと比べ，単元を通して獅子舞と獅子舞に関わる知識がより深まったことを実感させ，自己の学びへの肯定感や今後への意欲をもたせていく。 ・単元を通じた学習課題である「獅子舞は，どのようにして，長く続いてきたのだろう。」について改めて問うことで，保存や継承に向けて努力をしてきた人々がいることやその思いを感じ取ることができるようにする。 <p>社獅子舞に携わる人々の思いや願いについて調べたことをまとめたり，年表に表したりする。【知識・技能②】※行動観察，ワークシート</p> <p>国集めた情報を比較・分類したり，引用や出典の仕方を理解したりしている。【知識・技能①】※行動観察，ワークシート</p>
三 次	<p>○図鑑をつくる。</p> <p>「獅子舞の□□ずかん」をつくろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学びを整理する。 ・3時間の授業の見直しをもつ。 ・図鑑作成の計画を立てる。 ・個人課題を設定し，学習を進める。 ・これまで調べてきたことを整理したり，書く順序を考えたりするために組み立て表を作成する。 <p>(Xチャート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの調査や交流を通して得た獅子舞の不思議についての図鑑づくりに取り組ませる。 ・筋道立てて書くことができるように，書く内容について組み立て表などを用いて整理させる。 ・今までの学習成果をもとにまとめていく。 ・表紙や目次，あとがきなどにも分担して取り組む。

	<ul style="list-style-type: none"> ・組み立て表をもとに，図鑑を書く。 ・自分で読み直したり友達と文書を読み合ったりしながら，加筆修正を行う。 	<p>国 比較や分類の仕方，引用の仕方や出典の仕方などを理解しながら図鑑を書いている。また，様々な情報の中から必要なものを取り出して活用している。【知識・技能①】※行動観察，ワークシート</p> <p>国 学習の見通しをもって自己の進み具合を調整しながら「不思議ずかん」を作成しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度①】※行動観察，ワークシート</p> <p>国 相手や目的を意識して，書き表し方を工夫したり，文章の間違いを正したり，表現の仕方をたしかめたりしている。</p>
16 国 語	<p>それぞれ完成した図鑑を読み合う。</p> <p>「獅子舞の□□ずかん」(仮)を完成させよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成したものを読み合い，成果を確かめ合う。 ・図書コーナーなどに展示する。 ・単元の振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員でそれぞれが作成した図鑑を見合う時間をとる。 ・全員の図鑑を集めて一冊に綴じ，校内に掲示する。 ・単元を通した振り返りや他者からのフィードバックを通して，これからの子どもたちの学ぶ意欲となるようにする。